

平成 26 年度に係る部局達成状況評価

- | | |
|---------------------|--------------------------|
| 1. 附属図書館 | 26. 接合科学研究所 |
| 2. 文学研究科・文学部 | 27. 低温センター |
| 3. 人間科学研究科・人間科学部 | 28. 超高压電子顕微鏡センター |
| 4. 外国語学部 | 29. ラジオアイソトープ総合センター |
| 5. 法学研究科・法学部 | 30. 環境安全研究管理センター |
| 6. 経済学研究科・経済学部 | 31. 国際教育交流センター |
| 7. 理学研究科・理学部 | 32. 生物工学国際交流センター |
| 8. 医学系研究科・医学部（医学科） | 33. 太陽エネルギー化学研究センター |
| 9. 医学系研究科・医学部（保健学科） | 34. 総合学術博物館 |
| 10. 医学部附属病院 | 35. 保健センター |
| 11. 歯学研究科・歯学部 | 36. 臨床医工学融合研究教育センター |
| 12. 歯学部附属病院 | 37. コミュニケーションデザイン・センター |
| 13. 薬学研究科・薬学部 | 38. 金融・保険教育研究センター |
| 14. 工学研究科・工学部 | 39. 科学機器リノベーション・工作支援センター |
| 15. 基礎工学研究科・基礎工学部 | 40. グローバルコラボレーションセンター |
| 16. 言語文化研究科 | 41. 日本語日本文化教育センター |
| 17. 国際公共政策研究科 | 42. 環境イノベーションデザインセンター |
| 18. 情報科学研究科 | 43. ナノサイエンスデザイン教育研究センター |
| 19. 生命機能研究科 | 44. 知的財産センター |
| 20. 高等司法研究科 | 45. 核物理研究センター |
| 21. 連合小児発達学研究科 | 46. サイバーメディアセンター |
| 22. 微生物病研究所 | 47. レーザーエネルギー学研究センター |
| 23. 産業科学研究所 | 48. 免疫学フロンティア研究センター |
| 24. 蛋白質研究所 | 49. 全学教育推進機構 |
| 25. 社会経済研究所 | 50. 教育学習支援センター |

達成状況評価書(平成26年度)

部局名:附属図書館

項 目		コメント
1. 教育 (大学の年度計画: 1~7)	教育に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、総合図書館で、試験期の24時間開館を正式に開始したほか、キャリア支援図書コーナーの資料の充実に努めるなど、積極的に取り組んでおり、大学の実績として評価できる。 【留意事項】 特になし。
2. 研究 (大学の年度計画: 8~10)	研究に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 該当なし。 【特記事項】 該当なし。 【留意事項】 該当なし。
3. その他 (大学の年度計画: 11~17)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、適切に実施しており、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 特になし。 【留意事項】 特になし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画: 18~30)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、特筆すべき取り組みが行われており、計画は上回って達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、総合図書館に60万冊を収納することができる自動書庫を導入するとともに、空いた空間を利用して総合図書館と理工学図書館のラーニングコモンズを拡充して、学生が自学自習やグループ学習・課題探求・プレゼンテーション等アクティブ・ラーニングに利用できるような学習環境の整備を行ったほか、外国学図書館にはマルチメディアを用いた外国語学習ができるようにAVコモンズを整備するなど、積極的に取り組んでおり、大学の実績として評価できる。 【留意事項】 特になし。
5. 全体の項目に関する達成状況		【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は順調に遂行されていると判断できる。引き続き、現行の取組を維持するよう期待する。 【特記事項】 平成26年度は、総合図書館と理工学図書館のラーニングコモンズ拡充、外国学図書館のAVコモンズの整備など、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。

達成状況評価書(平成26年度)

部局名:文学研究科・文学部

項 目		コメント
1. 教育 (大学の年度計画：1～7)	教育に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、特筆すべき取り組みが行われており、計画は上回って達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、「マルチリンガル・エキスパート養成プログラム」の具体案を作成し、外国語学部の学生が文系他学部の課程を副専攻として履修できるプログラムを平成27年度から実施する体制を整えるなど、積極的に取り組んでおり、大学の実績として評価できる。 【留意事項】 特になし
2. 研究 (大学の年度計画：8～10)	研究に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、国文学研究資料館が推進する「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワークの構築計画」に参加・協力するとともに、これと連携させて部局内に共同研究組織として「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築」クラスターを立ちあげるなど、大学の年度計画の達成に貢献している。 【留意事項】 特になし
3. その他 (大学の年度計画：11～17)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、ロンドン大学ゴールドスミス校と新たに部局間交流協定を締結するとともに、新たな協定先の開拓をすすめるなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし
4. 業務運営以降 (大学の年度計画：18～30)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、部局ウェブサイトのトップページおよびスマートフォン対応ページを、見やすくするために大幅に改編し、併せて部局の紹介・広報ビデオを日本人学生だけでなく留学生用に新たに制作するなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし
全体の項目に関する達成状況		【計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は順調に遂行されていると判断できる。引き続き、現行の取組を維持するよう期待する。 【特記事項】 平成26年度は、「マルチリンガル・エキスパート養成プログラム」の実施体制の整備、部局ウェブサイト改編、部局紹介・広報ビデオの作成など、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし

達成状況評価書(平成26年度)

部局名:人間科学研究科・人間科学部

項 目		コメント
1. 教育 (大学の年度計画：1～7)	教育に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、特筆すべき取り組みが行われており、計画は上回って達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、「マルチリンガル・エキスパート養成プログラム」の具体案を作成し、外国語学部の学生が文系他学部の課程を副専攻として履修できるプログラムを平成27年度から実施する体制を整えるなど、積極的に取り組んでおり、大学の実績として評価できる。 また、G30英語コース専門教育科目の国際交流科目としての登録数を昨年度の2科目から13科目に増加させ、一般学生の受講生が4名から204名に急増するなど、成果が上がっている。 【留意事項】 特になし。
2. 研究 (大学の年度計画：8～10)	研究に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、所属教員が、平成26年度のサントリー学芸賞と澁澤賞をそれぞれ受賞したほか、大学院生が第5回（H26年度）日本学術振興会育志賞を受賞するなど、学外において若手研究者の研究成果が高く評価されており、成果が上がっている。 【留意事項】 特になし。
3. その他 (大学の年度計画：11～17)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、豊中市と気仙沼市の地域住民と連携して、防災プロジェクトを進め、その成果である「豊中国際救援マップ」と「“気仙沼”震災伝承マップ」が、第5回防災コンテスト（独立行政法人防災科学技術研究所主催、内閣府・文部科学省後援）で高い評価を受け、優秀賞を受賞するなど、成果が上がっている。 【留意事項】 特になし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画：18～30)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、特筆すべき取り組みが行われており、計画は上回って達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、ミッションの再定義に基づき、2専攻を1専攻にし、4学系体制にすること、新たに未来共創センターを設置すること、これらの組織改編に伴って、学系の枠を超えた教員の異動（リシャッフル）を実施することを決定したほか、箕面キャンパスにある研究室を持つ10名の教員の研究室等を吹田キャンパスの部局建物内に確保し、平成27年7月までに、移転することを決定するなど、積極的に取り組んでおり、大学の実績として評価できる。 【留意事項】 特になし。
5. 全体の項目に関する達成状況		【計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は特筆すべき進捗状況にあると判断できる。引き続き、現行の取り組みを維持するよう期待する。 【特記事項】 平成26年度は、「マルチリンガル・エキスパート養成プログラム」の実施体制の整備、ミッションの再定義に基づく組織再編など、特筆すべき取り組みを行っている。 【留意事項】 特になし。

達成状況評価書(平成26年度)

部局名:外国語学部

項 目		コメント
1. 教育 (大学の年度計画：1～7)	教育に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、特筆すべき取り組みが行われており、計画は上回って達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、「マルチリンガル・エキスパート養成プログラム」の具体案を作成し、所属学生が文系他学部の課程を副専攻として履修できるプログラムを、平成27年度から実施する体制を整えるなど、積極的に取り組んでおり、大学の実績として評価できる。 また、学部共通科目の更なる充実等について検討し、言語文化研究科との共通科目として、専攻を横断した複数担当教員によるリレー講義科目の開講を決定するなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
2. 研究 (大学の年度計画：8～10)	研究に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 該当なし。 【特記事項】 該当なし。 【留意事項】 該当なし。
3. その他 (大学の年度計画：11～17)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、交流協定の改廃や新規締結（新規交流協定11件、更新6件、廃止4件）を進め、学生の交換留学（派遣110件、受入78件）などの実質的な協定の運用に積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画：18～30)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、学部長のリーダーシップを発揮できるように一部の委員を学部長指名とし、大学院における各種委員会と連携させ、効率的な運営を行う体制を整えたほか、メンタルヘルスクエア及びハラスメント対策に関しての学生からの意見収集として、一部の専攻語でパイロット調査を行ない、データ分析を行うなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
全体の項目に関する達成状況		【計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は順調に遂行されていると判断できる。引き続き、現行の取組を維持するよう期待する。 【特記事項】 平成26年度は、「マルチリンガル・エキスパート養成プログラム」の実施体制の整備、交流協定締結と運用による国際交流の推進、学部長のリーダーシップを発揮するための体制整備、学生支援のためのパイロット調査など、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。

達成状況評価書(平成26年度)

部局名:法学研究科・法学部

項 目		コメント
1. 教育 (大学の年度計画：1～7)	教育に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、特筆すべき取り組みが行われており、計画は上回って達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、「マルチリンガル・エキスパート養成プログラム」の具体案を作成し、外国語学部の学生が文系他学部の課程を副専攻として履修できるプログラムを平成27年度から実施する体制を整えるなど、積極的に取り組んでおり、大学の実績として評価できる。 また、中央省庁勤務経験者の採用、外国人の教員の採用により、教育課程の充実を図ったほか、「司法通訳」プログラム科目において、平成27年度から警察庁および法務省の協力を得る体制を整えるなど、大学の年度計画の達成に貢献している。 【留意事項】 特になし。
2. 研究 (大学の年度計画：8～10)	研究に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、サバティカル制度利用に伴う授業の代替措置について、サバティカル期間中の非常勤講師の委嘱の申請に係る申し合わせを、高等司法研究科と協議の上制定し、サバティカル制度をより利用しやすいものとするなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
3. その他 (大学の年度計画：11～17)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、法学部同窓会（青雲会）からの寄附をもとに「青雲キャリア支援基金」を創設するなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画：18～30)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、適切に実施しており、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 特になし。 【留意事項】 特になし。
5. 全体の項目に関する達成状況		【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は順調に遂行されていると判断できる。引き続き、現行の取組を維持するよう期待する。 【特記事項】 平成26年度は、「マルチリンガル・エキスパート養成プログラム」の実施体制の整備、サバティカル制度運用における他部局との申し合わせ制定など、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。

達成状況評価書(平成26年度)

部局名:経済学研究科・経済学部

項 目	コメント
1. 教育 (大学の年度計画: 1～7)	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、特筆すべき取り組みが行われており、計画は上回って達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、「マルチリンガル・エキスパート養成プログラム」の具体案を作成し、外国語学部の学生が文系他学部の課程を副専攻として履修できるプログラムを平成27年度から実施する体制を整えるなど、積極的に取り組んでおり、大学の実績として評価できる。 また、海外で開催された留学生フェアに積極的に参加し、対外的な宣伝活動を行うなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
2. 研究 (大学の年度計画: 8～10)	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、適切に実施しており、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 特になし。 【留意事項】 特になし。
3. その他 (大学の年度計画: 11～17)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流 【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、国際交流室を継続して運営して、新たに国立台湾大学社会科学学院と協定を締結するとともに、これまでの学生交流について見直しを図り、学生受け入れ・派遣の推進を強化することを目的に、大学間・部局間協定校を訪問するなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画: 18～30)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況 【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、「イノベーション・マネジメント寄附講座」主催で公開講義「ビジネス・イノベーション」(全14回)を開催し、実務教育の充実や企業との連携、広報活動の推進に、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
5. 全体の項目に関する達成状況	【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は順調に遂行されていると判断できる。引き続き、現行の取組を維持するよう期待する。 【特記事項】 平成26年度は、「マルチリンガル・エキスパート養成プログラム」の実施体制の整備、留学生募集や学生交流推進のための取組、「イノベーション・マネジメント寄附講座」主催による公開講義開催など、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。

達成状況評価書(平成26年度)

部局名:理学研究科・理学部

項 目		コメント
1. 教育 (大学の年度計画: 1～7)	教育に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、大学院課程において、多様な進路に対応した学生の能力開発のためのプログラムとして、6つのサブプログラム群からなる「高度博士人材養成プログラム」を新たにスタートさせ、6つのプログラムのうち国際教育を推進するためのサブプログラムである「グローバル化プログラム」を開始したほか、新たに部局独自のキャリア支援室を設置し進路・就職支援を強化するなど、積極的に取り組んでおり、大学の実績として評価できる。 【留意事項】 特になし。
2. 研究 (大学の年度計画: 8～10)	研究に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、所属教員による革新的超分子材料の創製とその機能評価に関する研究が科学技術分野の文部科学大臣表彰若手科学者賞を受賞するなど、成果が上がっている。 【留意事項】 特になし。
3. その他 (大学の年度計画: 11～17)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、国際交流支援として、留学生相談室の新規開設、専任の事務補佐員の雇用、国際交流サロンの整備及び活用開始、留学生個別面談の開催を行うなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画: 18～30)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、理学研究科に何らかの形で関係した人たちを対象とした「理学友倶楽部」を立ち上げ、卒業生だけでなく関係者を広く含めたコミュニティの形成を開始し、社会との関係作りを進めるなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
5. 全体の項目に関する達成状況		【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は順調に遂行されていると判断できる。引き続き、現行の取組を維持するよう期待する。 【特記事項】 平成26年度は、大学院学生を対象とした高度博士人材養成プログラムの実施、部局独自のキャリア支援室の設置、理学研究科に何らかの形で関係した人たちを対象とした「理学友倶楽部」の立ち上げなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。

達成状況評価書(平成26年度)

部局名:医学系研究科・医学部

項 目		コメ ント
1. 教育 (大学の年度計画：1～7)	教育に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、特筆すべき取り組みが行われており、計画は上回って達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、優秀な留学生を獲得するため、大学院課程において来日を必要としない入試制度を実施しており、大学の実績として評価できる。 また、医学科教育センターと卒後教育開発センターを機能的に統合し、一貫した卒前・卒後教育制度を確立し、臨床実習時間を十分確保できる国際認証に対応するカリキュラムを制定するなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
2. 研究 (大学の年度計画：8～10)	研究に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、最先端医療イノベーションセンター棟の完成により30の産学連携プロジェクトを実施し、研究科（医学科）初の共同研究講座を8件導入し、産学連携の強化を図るなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
3. その他 (大学の年度計画：11～17)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、医学科国際交流センターが中心となり、海外の大学、研究所との学術交流協定を新たに6件締結するとともに1件を更新するなど、積極的に取り組んでおり、大学の実績として評価できる。 また、学生の海外交流を促進し、当初の予定よりも2倍の数の大学と交換留学を実施するなど、成果が上がっている。 【留意事項】 特になし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画：18～30)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、寄附講座が移転すること等により生じた空きスペースを、研究科長裁量経費等により速やかに改修等を行い、研究科の将来を担う研究力のさらなる向上を目指す新研究分野創成事業プロジェクトを行う研究体制を整備するなど、積極的に取り組んでおり、大学の事績として評価できる。 【留意事項】 特になし。
5. 全体の項目に関する達成状況		【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は順調に遂行されていると判断できる。引き続き、現行の取組を維持するよう期待する。 【特記事項】 平成26年度は、来日を必要としない入試制度実施、国際認証に対応するカリキュラムの制定、海外の大学等との国際交流実施、空きスペース改修等による研究体制整備など、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。

達成状況評価書(平成26年度)

部局名: 医学系研究科・医学部(保健学)

項 目		コ メ ン ト
1. 教育 (大学の年度計画: 1～7)	教育に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、適切に実施しており、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 特になし。 【留意事項】 特になし。
2. 研究 (大学の年度計画: 8～10)	研究に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、企業との共同研究を中心にして、工学・薬学・経済学等、他部局との共同研究を行う産学連携研究拠点である「保健学科設置20周年メモリアルホールBDC（仮称）」を設置するため、準備委員会を発足し、研究施設建設のための手続きを開始するなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
3. その他 (大学の年度計画: 11～17)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、適切に実施しており、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 特になし。 【留意事項】 特になし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画: 18～30)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 妊娠、出産、子育てをしながら大学教員としてのキャリアを継続できるように、産前産後を含めて代替教員を配置するなど、女性教員が休業しやすい環境作りに努めており、平成26年度は、代替教員3名を配置し、4名が産前・産後休業を、3名が育児休業を取得するなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
5. 全体の項目に関する達成状況		【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は順調に遂行されていると判断できる。引き続き、現行の取組を維持するよう期待する。 【特記事項】 平成26年度は、保健学科設置20周年メモリアルホールBDC（仮称）」設置準備を進めたほか、女性教員キャリア支援を進めるなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。

達成状況評価書(平成26年度)

部局名:医学部附属病院

項 目	コメ ント
附属病院に関する項目 (大学の年度計画：15～17)	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 (1) 教育・研究面 平成26年度は、臨床応用へ向けた橋渡し研究を総合的に推進するための継続的な活動を行い、文部科学省橋渡し研究加速ネットワークプログラムの全拠点中最多となる4件の医師主導治験を新たに開始している。また、新規橋渡し研究として、治験外臨床研究を5件開始するとともに、多施設間臨床研究データ収集システムを利用して58施設と連携し、研究連携体制を強化している。 教育面においては、循環型の医師キャリア形成システムの構築・検証・改善を進めた結果、卒後教育開発センターにおける平成26年度の登録専攻医が341名の増加（計1,169名）となるなど、大学の年度計画の達成に貢献している。 (2) 診療面 平成26年度は、平成26年4月にIVRセンターを設置し、院内のIVR（放射線診断技術の治療的応用）診療において関連部署が連携し、包括的な診断及び治療が可能な体制を構築している。また、集中治療体制の充実を目指して、平成25年度に手術室を増室した結果、平成26年度における手術件数が過去最多となり1万件を超えるなど（平成25年度：約9,500件）、成果が上がっている。 (3) 運営面 平成26年度は、国際医療センターにおいて、インバウンド、アウトバウンド、教育・研究の3基盤において整備を進めており、カタールHamad Medical Corporationとの学術交流と共同研究に関する包括的合意の締結、国際医療を担う人材養成教育（全学共通教育「健康・医療イノベーション学」）のカリキュラム新設、医学系研究科特定講座「国際・未来医療学」講座の設置など、積極的に取り組み、大学の年度計画の達成に貢献している。 【留意事項】 特になし。
5. 全体の項目に関する達成状況	【中期計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。

達成状況評価書(平成26年度)

部局名:歯学研究科・歯学部

項 目		コメント
1. 教育 (大学の年度計画：1～7)	教育に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、特筆すべき取り組みが行われており、計画は上回って達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、部局独自のFDを8回開催し、延べ1,051名が参加するなど、積極的に取り組んでおり、大学の実績として評価できる。 また、生命科学分野の研究に関して、英語でプレゼンテーションやディスカッションを行う力を高めることを目標として、博士課程の学生を対象に、特別科目「アカデミック英語」を開講するなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
2. 研究 (大学の年度計画：8～10)	研究に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、口腔の難治性疾患の新規診断法、治療法、予後予測を包括的に扱うプロジェクトである「口の難病から挑むライフ・イノベーション」を遂行するとともに、同プロジェクトのトランスレーショナル教育カリキュラムである「口の難病マイスターコース」を開講するなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
3. その他 (大学の年度計画：11～17)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、学部学生の短期海外派遣プログラムで5名の学生を派遣するとともに、平成27年度から、欧米の大学に加え、アジアの大学に派遣するためのプログラムの構築を行ったほか、海外からの短期学生受入れプログラムであるISW（International Student Week）で10大学、33名の学生をのべ254日受入れるなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画：18～30)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、適切に実施しており、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 特になし。 【留意事項】 特になし。
5. 全体の項目に関する達成状況		【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は順調に遂行されていると判断できる。引き続き、現行の取組を維持するよう期待する。 【特記事項】 平成26年度は、部局独自のFDの実施、英語運用能力の向上を目指した特別科目の開設、トランスレーショナル教育カリキュラムである「口の難病マイスターコース」の開講など、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。

達成状況評価書(平成26年度)

部局名:歯学部附属病院

項 目	コ メ ン ト
附属病院に関する項目 (大学の年度計画：15～17)	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 (1) 教育・研究面 平成26年度は、歯学研究科とともに実施している「口の難病から挑むライフ・イノベーション」事業において、リサーチマインドを有した臨床系研究生（マイスター）を養成するプログラムを実施したほか、臨床技能評価の省力化・公平性を確立するために臨床実習・臨床研修連携ログブックシステムを独自に開発し、平成26年度日本歯科医学教育学会システム開発賞を受賞するなど、成果が上がっており、大学の年度計画の達成に貢献している。 (2) 診療面 平成26年度は、Cell Processing Centerを活用した歯周組織再生を目指した臨床研究を推進し、同施設にて被験者から脂肪組織由来幹細胞を単離・培養し、世界で初めて同細胞の歯周組織欠損部への移植を実施している。また、口唇裂・口蓋裂・口腔顔面成育治療センターの活動を開始し、乳幼児期から成人に至るまでの治療内容の相談、説明ならびに精神的なケアを行う体制を診療科横断的に整備するなど、大学の年度計画の達成に貢献している。 (3) 運営面 平成26年度は、病院相互評価や外部委員で構成されるアドバイザリーボードにおいて指摘、助言を受けた項目について、「病院敷地内の植樹帯景観の整然化」、「市内の関連医院等へ配布の広報誌について発行部数の増加（8,000部から10,000部へ増）」など、病院運営に迅速に反映させたほか、医療物品についての医学部附属病院との共同一括購入促進、災害時必要物品の整備に取り組むなど、大学の年度計画の達成に貢献している。 【留意事項】 特になし。
5. 全体の項目に関する達成状況	【中期計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。

達成状況評価書(平成26年度)

部局名:薬学研究科・薬学部

項 目		コメ ント
1. 教育 (大学の年度計画：1～7)	教育に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、先導的医療人育成に向けた取組（PharmDコース）を実施したほか、学生の「創薬基盤技術力」と「創薬臨床力」を一層充実させるために、レギュラトリーサイエンスや薬事に強みを持つ国立医薬品食品衛生研究所や（独）医薬品医療機器総合機構による遠隔講義を実施するなど、積極的に取り組んでおり、大学の実績として評価できる。 【留意事項】 特になし。
2. 研究 (大学の年度計画：8～10)	研究に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、ヒトiPS細胞から肝細胞への高効率分化誘導法の開発とその実用化に関する研究がバイオインダストリー協会賞を、革新的な新規遺伝子導入技術の開発基盤研究が文部科学大臣表彰科学技術賞（研究部門）を受賞するなど、成果が上がっている。 また、文部科学省のテニュアトラック制度を活用し、新たに特任助教1名を国際公募にて選考・採用したほか、国際公募に基づく教員人事採用規定を定め、本制度を利用した承継ポスト教員（准教授）の国際公募・選考を行うなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
3. その他 (大学の年度計画：11～17)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、同窓会連携の一層の強化を目的に大阪大学薬友会賞（薬学研究科／大阪大学薬友会合同事業）を実施し、同窓会からの寄附により、若手教員3名、大学院生・学部学生11名を選定・表彰するなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画：18～30)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、研究科長、副研究科長、評議員に創成薬学専攻長、医療薬学専攻長を加えた5名からなる機動的かつ戦略的な執行部体制の構築と、委員会の統廃合により、効率的な業務運営と若手教員の負担軽減を達成するなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
5. 全体の項目に関する達成状況		【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は順調に遂行されていると判断できる。引き続き、現行の取組を維持するよう期待する。 【特記事項】 平成26年度は、文部科学省テニュアトラック制度を活用、大阪大学薬友会賞の実施、新執行部体制の構築など、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。

達成状況評価書(平成26年度)

部局名:工学研究科・工学部

項 目		コメン
1. 教育 (大学の年度計画: 1~7)	教育に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、国際交流推進センターにて1・3年次のTOEICスコアの分析を行い、高学年次における英語能力の向上を検証するとともに、e-learningコンテンツの活用等により学部高年次英語教育を進めたほか、大学院における英語による授業の拡張を進め、化学系において新たな英語コースの平成27年度からの開始を決定するなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
2. 研究 (大学の年度計画: 8~10)	研究に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、若手研究者支援のため、国内・国際公募により優秀な研究者を募集し、テニュアトラック制度を継続して実施している。また、気象用フェーズドアレイレーダの開発により科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞(開発部門)を、ニーズとシーズの調査による電気技術の多角的理解増進に関する研究が科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞(理解増進部門)を、脈管構造を有する三次元ヒト生体組織モデルの研究が科学技術分野の文部科学大臣表彰若手科学者賞を受賞するなど、成果が上がっている。 【留意事項】 特になし。
3. その他 (大学の年度計画: 11~17)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、特筆すべき取り組みが行われており、計画は上回って達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、第5回、第6回共同研究講座・協働研究所交流会の開催、第7回共同研究講座シンポジウムの開催のほか、産学連携学会や、研究技術・計画学会でも積極的に共同研究講座の紹介を行っている。同共同研究講座制度は、第12回(平成26年度)産学官連携功労者表彰文部科学大臣賞を受賞するなど、成果が上がっている。 また、日本人学生の新たな海外派遣プログラムを立ち上げるため、部局間学術交流協定を締結している大学に関連事項のアンケート、ヒアリング調査を行い、新規プログラムの素案を作成するとともに、部局間協定の締結・更新については、従来のボトムアップ型締結に加えて、国際交流委員会が戦略的に主導するトップダウン型締結を開始するなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画: 18~30)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 戦略支援部を設置し競争的資金の獲得に向けて研究者を支援するなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
5. 全体の項目に関する達成状況		【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は順調に遂行されていると判断できる。引き続き、現行の取組を維持するよう期待する。 【特記事項】 平成26年度は、TOEICスコアの分析と学部高年次英語教育の推進、テニュアトラック制度の継続した運用、競争的資金の獲得のための研究者支援組織の設置など、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。

達成状況評価書(平成26年度)

部局名:基礎工学研究科・基礎工学部

項 目		コメント
1. 教育 (大学の年度計画: 1～7)	教育に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、大学英語支援室に外国人英語非常勤特任助教1名を常駐させ、論文添削や発表練習支援など74件の英語自習支援を行ったほか、基礎工学オーナーフラタニティープログラムで海外研修を企画し、オーナー学部学生(優秀な2年次学生)14名が参加するとともに、同プログラム学生が第4回サイエンス・インカレに参加し、プログラムメンバー1名がサイエンス・インカレ奨励表彰を受賞するなど、成果が上がっている。 【留意事項】 特になし。
2. 研究 (大学の年度計画: 8～10)	研究に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、特筆すべき取り組みが行われており、計画は上回って達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、JSTのERATOに「ERATO石黒共生ヒューマンロボットインタラクションプロジェクト」が新たに採択され研究を開始したほか、光量子操作による量子情報技術の研究が科学技術分野の文部科学大臣表彰若手科学者賞を受賞するなど、成果が上がっており、大学の実績として評価できる。 【留意事項】 特になし。
3. その他 (大学の年度計画: 11～17)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、「データ科学特論Ⅱ」を学生だけでなく公開講義として開講し、多くの大学教員・研究員・PD等が受講しており、受講者から高い評価を受けるなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画: 18～30)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、基礎工学研究科全体および全専攻領域の各単位において、26年度12月時点の評価資料に基づき、17名の外部委員による評価を実施したほか、広報企画推進室の設置、研究科将来構想WGの設置と「基礎工学部、基礎工学研究科の将来構想-次の半世紀に向けて-」の作成など、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
5. 全体の項目に関する達成状況		【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は順調に遂行されていると判断できる。引き続き、現行の取組を維持するよう期待する。 【特記事項】 平成26年度は、英語自習支援の実施、基礎工学オーナーフラタニティープログラムの実施、ERATOへの新規採択、所属教員の文部科学大臣表彰若手科学者賞の受賞、外部評価の実施など、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。

達成状況評価書(平成26年度)

部局名:言語文化研究科

項 目		コメン
1. 教育 (大学の年度計画: 1~7)	教育に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、特筆すべき取り組みが行われており、計画は上回って達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、外国語学部の幹事研究科として、「マルチリンガル・エキスパート養成プログラム」の具体案を作成し、外国語学部の学生が文系他学部の課程を副専攻として履修できるプログラムを平成27年度から実施する体制を整えている。さらに、高度教養教育としての外国語教育の充実のため、知のジムナスティックス(高度教養プログラム)科目に英語上級(Reading)、ドイツ語上級、フランス語上級、ロシア語上級、中国語上級などの計12科目を提供したほか、「関連研究言語科目」について、その開設状況を文系学部周知した結果、他学部(外国語学部を含む)から計541名の受講者があるなど、積極的に取り組んでおり、大学の実績として評価できる。 また、全学教育推進機構の言語教育部門の主幹部局として、多言語教育を充実させるため、「特別外国語」を卒業要件科目の国際教養2の科目に位置づけて開講したほか、全学学生のアカデミックな英語運用能力を養成するため、教育推進部に協力して外部委託による英語講座を企画・開講するなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
2. 研究 (大学の年度計画: 8~10)	研究に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、国際公募によりネイティブ・スピーカーの特任准教授4名を採用したほか、「マルチリンガル・エキスパート養成プログラム」事業で、特任助教1名を、「クロス・アポイント制度」により、海外の研究機関(スウェーデン・フィンランド・イスラエル・ノルウェー)から特任教員4名を採用するなど、教員組織の活性化に積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
3. その他 (大学の年度計画: 11~17)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、海外教育研究機関16件と交流協定を締結するなど(新規11件、更新5件)、国際交流に積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画: 18~30)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、適切に実施しており、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 特になし。 【留意事項】 特になし。
5. 全体の項目に関する達成状況		【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は順調に遂行されていると判断できる。引き続き、現行の取組を維持するよう期待する。 【特記事項】 平成26年度は、「マルチリンガル・エキスパート養成プログラム」の実施体制の整備、高度教養教育における外国語教育の充実、共通教育における外国語教育の充実など、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。

達成状況評価書(平成26年度)

部局名:国際公共政策研究科

項 目		コメント
1. 教育 (大学の年度計画：1～7)	教育に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、稲盛財団寄附講座「グローバルな公共倫理とソーシャルイノベーション」で国際協力、国際人道法、難民問題など課題解決型教育を行うとともに、国連政策研究センターを活用し、国際機関人材育成教育や国連インターン派遣、国際機関リクルートミッションの受け入れを行うなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
2. 研究 (大学の年度計画：8～10)	研究に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、大型資金獲得のための委員会（大型教育研究プロジェクトWG）を設け、外部資金の組織的獲得に努め、その成果の一端として、シンポジウム開催経費の獲得に至るなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
3. その他 (大学の年度計画：11～17)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、大阪府立天王寺高校、兵庫県立兵庫高校などとタイアップして、「OSIPP高校生セミナー」を3日間開催するなど、積極的に取り組んでおり、大学の実績として評価できる。 【留意事項】 特になし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画：18～30)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、十分とはいえない部分もあるが、努力しており、計画はある程度、達成されていると判断できる。 【特記事項】 特になし。 【留意事項】 研究費の不正使用が行われていたことから、再発防止のための着実な取組が求められる。 また、研究科の作成した平成26年度達成状況のうち「部局の特徴的な取り組み」について、記載内容が前年度と同一であるなど、自己点検・評価が適切に行われていると言い難い状況であり適切な実施が望まれる。
5. 全体の項目に関する達成状況		【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は着実に遂行されていると判断できる。引き続き、計画が順調に達成されるよう取り組むことを期待する。 【特記事項】 平成26年度は、大型資金獲得のための委員会の設置、OSIPP高校生セミナーの開催など、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。

達成状況評価書(平成26年度)

部局名:情報科学研究科

項 目		コメント
1. 教育 (大学の年度計画：1～7)	教育に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、リーディング大学院プログラムである「ヒューマンウェアイノベーション博士課程プログラム」において、俯瞰力とデザイン力を備えグローバルに活躍のできるリーダーの養成や新しい情報システムを構想できる技術者・研究者を養成するための新規科目ヒューマンウェア基礎論I、IIを新たに設置し実施するなど取り組んでおり、大学の実績として評価できる。 また、インフォメーションテクノロジー英語特別プログラムを創設し、アジア人材育成研究教育プログラムと協調して学生受入れを開始するなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
2. 研究 (大学の年度計画：8～10)	研究に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、先進的ネットワーク環境におけるデータ管理技術に関する研究が日本学術振興会賞を受賞するなど、成果が上がっている。 また、JST・ERATO「四方動的微小反応場プロジェクト」をはじめ重要研究を推進するなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
3. その他 (大学の年度計画：11～17)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、昨年度に引き続き、情報科学研究科が事務局となり、共同研究の可能性を目指したマッチング活動を行い、大阪大学全体で昨年度の3件を上回る26件のマッチングが成立しており、大学の実績として評価できる。 【留意事項】 特になし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画：18～30)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、適切に実施しており、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 特になし。 【留意事項】 特になし。
5. 全体の項目に関する達成状況		【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は順調に遂行されていると判断できる。引き続き、現行の取組を維持するよう期待する。 【特記事項】 平成26年度は、リーディング大学院プログラムである「ヒューマンウェアイノベーション博士課程プログラム」での新規科目の開始、インフォメーションテクノロジー英語特別プログラムの創設、企業とのマッチング活動など、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。

達成状況評価書(平成26年度)

部局名:生命機能研究科

項 目		コメン
1. 教育 (大学の年度計画：1～7)	教育に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、優秀な留学生を獲得するため、来日を必要としない入試制度を大学院課程において実施しており、大学の実績として評価できる。 また、昨年度に引き続き、「春の学校」と「夏の学校」を開催し研究指向の高い学部生との対話を行い、優秀な学生のリクルートに努めるなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
2. 研究 (大学の年度計画：8～10)	研究に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、自発性瞬目の機能的役割とその神経機構の解明に関する研究が文部科学大臣表彰若手科学者賞を、生きた動物内での骨免疫細胞の動態解析法の開発とその制御機構の解明に関する研究が日本学術振興会賞を受賞するなど、成果が上がっている。 また、理化学研究所生命システム研究センターが入居する生命システム棟が完成し、「生命動態イメージング研究」の本格的な推進体制を構築するなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
3. その他 (大学の年度計画：11～17)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、適切に実施しており、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 特になし。 【留意事項】 特になし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画：18～30)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、適切に実施しており、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 特になし。 【留意事項】 特になし。
5. 全体の項目に関する達成状況		【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は順調に遂行されていると判断できる。引き続き、現行の取組を維持するよう期待する。 【特記事項】 平成26年度は、優秀な留学生を獲得するための、来日を必要としない入試制度の実施、所属教員の文部科学大臣表彰若手科学者賞等の受賞、「生命動態イメージング研究」の本格的な推進体制の構築など、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。

達成状況評価書(平成26年度)

部局名: 高等司法研究科

項 目	コメント
1. 教育 (大学の年度計画: 1～7)	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、知的財産センターの智適塾と連携しながら、特殊講義「特許関係訴訟」を開講し、この講義についての受講生アンケートを踏まえ、平成27年度には「特許・著作権訴訟」として開講するなど、積極的に取り組んでおり、この「智適塾プロジェクトによる先端法曹教育の取組み」を含む4件の取組が、法科大学院公的支援見直し加算プログラムにおいて、優れた取組として評価されるなど、成果が上がっている。 また、過去5年間遡って特別選別による入学者の追跡調査を行い、選抜方法として有効に機能していることを確認するなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
2. 研究 (大学の年度計画: 8～10)	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、サバティカル制度利用に伴う授業の代替措置について、サバティカル期間中の非常勤講師の委嘱の申請に係る申し合わせを、法学研究科と協議の上制定し、サバティカル制度をより利用しやすいものとするなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
3. その他 (大学の年度計画: 11～17)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流 【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、香港のHAPRO(ハーグ国際私法会議アジア太平洋事務局)ならびに台湾法官学院と学生交流協定を締結するとともに、韓国の忠南大学との海外インターンシップ事業を実施するなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画: 18～30)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況 【年度計画の達成状況】 平成26年度は、適切に実施しており、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 特になし。 【留意事項】 特になし。
5. 全体の項目に関する達成状況	【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は順調に遂行されていると判断できる。引き続き、現行の取組を維持するよう期待する。 【特記事項】 平成26年度は、「智適塾プロジェクトによる先端法曹教育の取組み」を含む4件の取組が、法科大学院公的支援見直し加算プログラムにおいて、優れた取組として評価されるなど、成果が上がっている。 【留意事項】 特になし。

達成状況評価書(平成26年度)

部局名:連合小児発達学研究所

項 目		コメ ント
1. 教育 (大学の年度計画：1～7)	教育に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、適切に実施しており、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 特になし。 【留意事項】 特になし。
2. 研究 (大学の年度計画：8～10)	研究に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、堺市で新設された、国・自治体・企業・大学が連携した日本で初めてのプロジェクト「キッズサポートセンターさかい」における附属子どものこころの分子統御機構研究センターが中心となり、新たな発達相談事業を立ち上げており、これに伴い受託研究が3倍に増額となるなど、成果が上がっている。 【留意事項】 特になし。
3. その他 (大学の年度計画：11～17)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、連携包括協定を締結している池田市において発達相談を実施し、さらに、障がい児保育分科会、児童発達支援センター等外来クラブ養育者勉強会、池田市民向け講演会等を開催したほか、社会性発達評価補助装置Gaze Finderを133名に実施するなど取り組んでおり、大学の実績として評価できる。 また、社会性発達評価補助装置については、大阪府2市1村（泉大津市、守口市、千早赤坂村）の1歳6ヶ月健診の現場にも導入し、子どもの発達の客観的気づきにつながると評価されるなど、成果が上がっている。 【留意事項】 特になし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画：18～30)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、適切に実施しており、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 特になし。 【留意事項】 特になし。
5. 全体の項目に関する達成状況		【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は順調に遂行されていると判断できる。引き続き、現行の取組を維持するよう期待する。 【特記事項】 平成26年度は、「キッズサポートセンターさかい」での発達相談事業の実施、連携包括協定締結の自治体との連携、社会性発達評価補助装置の活用など、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。

達成状況評価書(平成26年度)

部局名:微生物病研究所

項 目		コメント
1. 教育 (大学の年度計画：1～7)	教育に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、優秀な大学院生をASEAN諸国から留学生として招致し、国際的に通用する独立した研究者として育成することを目的とした新しい奨学金制度である「谷口海外奨学金」を創設し、9名の候補者（志願者）について現地で面談を行い、受入候補者を選考するなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
2. 研究 (大学の年度計画：8～10)	研究に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、特筆すべき取り組みが行われており、計画は上回って達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、海外拠点での研究を推進し、タイ感染症共同研究センターの国際共同研究として論文16報の発表、国際会議発表6件を行ったほか、ベトナムやウガンダ等との共同研究も推進している。さらに、共同利用・共同研究拠点の活動として、29件の共同研究を実施したほか、タイ、ミャンマー国境にて熱帯感染症医師研修を実施するなど積極的に取り組んでおり、大学の実績として評価できる。 また、病原体の迅速同定システムを活用した敗血症例や感染性心内膜炎例での病原体同定に成功するなど、成果が上がっている。 【留意事項】 特になし。
3. その他 (大学の年度計画：11～17)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、新規ワクチン創生事業を推進するため、一般財団法人阪大微生物病研究会と微生物病研究所との協働研究所であるBIKEN次世代ワクチン協働研究所を設置するなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画：18～30)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、適切に実施しており、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 特になし。 【留意事項】 特になし。
5. 全体の項目に関する達成状況		【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は順調に遂行されていると判断できる。引き続き、現行の取組を維持するよう期待する。 【特記事項】 平成26年度は、留学生への奨学金制度である「谷口海外奨学金」の創設、タイ感染症研究センターでの国際共同研究、一般財団法人阪大微生物病研究会との「BIKEN次世代ワクチン協働研究所」の設置など、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。

達成状況評価書(平成26年度)

部局名:産業科学研究所

項 目		コメント
1. 教育 (大学の年度計画：1～7)	教育に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、適切に実施しており、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 特になし。 【留意事項】 特になし。
2. 研究 (大学の年度計画：8～10)	研究に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、特筆すべき取り組みが行われており、計画は上回って達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、基盤的研究の顕著な成果として歩容映像解析とその科学捜査利用に関する研究が科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞（研究部門）を受賞したほか、トポロジカル絶縁体・超伝導体の先駆的研究が大阪科学賞を受賞するなど、成果が上がっており、大学の実績として評価できる。 また、国際交流における持続的な人材交流と国際共同研究を推進するための組織である「国際共同研究センター」に既存の7つの国際連携ラボに加えて、2つのラボを新設し、国際的な共同研究を推進したほか、共同開発を本格的に進めるため、ベルギーの研究機関であるimecを企業リサーチパークに誘致するなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
3. その他 (大学の年度計画：11～17)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、部局独自のキャリア形成教育事業として、複数の予算を組み合わせて、教員・学生の海外派遣、海外インターンシップ、ワークショップを実施し、さらに2つの国際連携ラボの設置、ナノテクセンターでの客員外国人との共同研究を推進し、国際的共同ネットワークを拡充するなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画：18～30)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、適切に実施しており、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 特になし。 【留意事項】 特になし。
5. 全体の項目に関する達成状況		【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は順調に遂行されていると判断できる。引き続き、現行の取組を維持するよう期待する。 【特記事項】 平成26年度は、国際連携ラボ新設による国際共同研究の推進、海外研究機関の誘致など、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。

達成状況評価書(平成26年度)

部局名: 蛋白質研究所

項 目		コメン ト
1. 教育 (大学の年度計画: 1～7)	教育に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、適切に実施しており、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 特になし。 【留意事項】 特になし。
2. 研究 (大学の年度計画: 8～10)	研究に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、特筆すべき取り組みが行われており、計画は上回って達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、アルツハイマー病の原因物質を捕捉して分解する受容体の原子構造の決定や、DNA修復機構による新たな発がんメカニズムの発見、網膜における神経シナプス形成機構から動体視力低下の機構の解明など、「生命分子素子から生命システムの全体像を解き明かす多次元国際研究」プロジェクトにおいて、大きな成果を多数輩出し、これらの成果をプレス発表するなど積極的に社会へ公開し、複数のメディアで取り上げられるなど、積極的に取り組んでいる。 さらに、共同研究により人工光合成への道筋を開く光合成の鍵となる蛋白質複合体の構造を決定するとともに、NMR（核磁気共鳴）検出信号の増幅に資する装置である極低温ヘリウムガス循環装置を開発し、蛋白質相互作用の原子分解能での解析に資する感度（約10 倍の固体NMR 感度）上昇を世界で初めて実証しているほか、細胞増殖や分化、運動、極性など多彩な細胞応答を制御する蛋白質であるWht 蛋白質の機能発現に重要な新規化学構造を決定するなど、成果が上がっている。 【留意事項】 特になし。
3. その他 (大学の年度計画: 11～17)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、国際共同研究を組織としての研究ネットワークとするために、蛋白質科学を積極的に進めているアジア・オセアニアの5つの大学・研究所（韓国・ソウル大学校薬学部；中国・北京大学蛋白質科学センター；中国・国立蛋白質科学センター上海；インドネシア・アイルランガ大学；オーストラリア国立大学自然科学・数理学部）と、個々に学術交流協定を締結するなど、積極的に取り組んでおり、大学の実績として評価できる。 【留意事項】 特になし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画: 18～30)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、適切に実施しており、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 特になし。 【留意事項】 特になし。
5. 全体の項目に関する達成状況		【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は順調に遂行されていると判断できる。引き続き、現行の取組を維持するよう期待する。 【特記事項】 平成26年度は、「生命分子素子から生命システムの全体像を解き明かす多次元国際研究」プロジェクトによる成果の輩出、アジア・オセアニアの5つの大学・研究所との学術交流協定締結など、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。

達成状況評価書(平成26年度)

部局名:社会経済研究所

項 目		コメント
1. 教育 (大学の年度計画：1～7)	教育に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 該当なし。 【特記事項】 該当なし。 【留意事項】 該当なし。
2. 研究 (大学の年度計画：8～10)	研究に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、ノーベル経済学賞受賞者による講演や、部局長未来戦略裁量経費を用いた著名な海外研究者招へいによるセミナーの開催などを行ったほか、国内同分野の附置研究所の研究業績比較を行い、1人当たり（専任講師以上）の国際著名学術誌論文掲載数と1人当たり（専任講師以上）の被引用回数（トムソン・ロイター社SSCI）で、国内同分野の5附置研究所平均値の2倍程度の成果を出していることを確認するなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
3. その他 (大学の年度計画：11～17)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、行動経済学研究センターシンポジウム、国立大学附置研究所・センター長会議第3部会シンポジウム、大阪大学たけのこ保育園OBシンポジウムなどを開催し講演を行ったほか、研究成果を生かして、各界における経済政策等の企画・立案への助言提言を行うなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画：18～30)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、適切に実施しており、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 特になし。 【留意事項】 特になし。
5. 全体の項目に関する達成状況		【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は順調に遂行されていると判断できる。引き続き、現行の取組を維持するよう期待する。 【特記事項】 平成26年度は、ノーベル経済学賞受賞者による講演、著名な海外研究者招へいによるセミナーの開催、国内同分野の附置研究所の研究業績比較の実施など、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。

達成状況評価書(平成26年度)

部局名:接合科学研究所

項 目		コメント
1. 教育 (大学の年度計画: 1~7)	教育に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、日本溶接協会と協力し、対話形式のアニメーションビデオ「浪速博士の溶接がってん！」をデジタルコミック「浪速博士の溶接がってん!R」に展開させ、同デジタルコミックを3ヶ月ごとに制作し、溶接・接合分野に関する教材・データベースとして、インターネット上で広く連載公開するなど、わかりやすい教材作成に、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
2. 研究 (大学の年度計画: 8~10)	研究に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、特筆すべき取り組みが行われており、計画は上回って達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、共同利用・共同研究拠点として、従来の一般研究課題応募型に加えて研究所が重点的に取り組むプロジェクト研究課題公募型を設定して、3件の先導的重点課題を実施するなど、積極的に取り組んだほか、眼鏡枠溶接専用の微細精密レーザ溶接技術の開発と、完全レアメタルフリー高強靱性純チタン粉末焼結材の研究が科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞(研究部門)を、プラズマ熱流動場におけるナノ粒子群形成メカニズムの研究が科学技術分野の文部科学大臣表彰若手科学者賞を受賞するなど成果が上がっており、大学の実績として評価できる。 また、共同利用・共同研究拠点の国際共同研究員制度(JWRI International Joint Research Collaborator [JIJReC] Program)を整備し、平成27年度国際共同研究員を世界に広く募集することにより、拠点のグローバル化を推進するなど、積極的に取り組んでいる。 さらに、東北大学、東京医科歯科大学、東京工業大学、名古屋大学、早稲田大学との共同研究において、体内に埋め込んで使われるチタン系インプラント材料に対してレーザーで表面に特異な溝加工処理を行うことにより、インプラント材料が生体に馴染みやすくさせ、生体活性を著しく向上させるなど、成果が上がっている。 【留意事項】 特になし。
3. その他 (大学の年度計画: 11~17)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、新たに海外の6機関と学術交流協定を締結し、合計で計49機関と交流協定を締結しており、海外との連携体制の構築を進めるなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画: 18~30)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、適切に実施しており、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 特になし。 【留意事項】 特になし。
5. 全体の項目に関する達成状況		【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は順調に遂行されていると判断できる。引き続き、現行の取組を維持するよう期待する。 【特記事項】 平成26年度は、わかりやすい教育教材としてのデジタルコミック作成、重点的に取り組むプロジェクト研究課題の設定、共同利用・共同研究拠点の国際共同研究員制度の整備など、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。

達成状況評価書(平成26年度)

部局名:低温センター

項 目		コメント
1. 教育 (大学の年度計画：1～7)	教育に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、適切に実施しており、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 特になし。 【留意事項】 特になし。
2. 研究 (大学の年度計画：8～10)	研究に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、適切に実施しており、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 特になし。 【留意事項】 特になし。
3. その他 (大学の年度計画：11～17)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流	【年度計画の達成状況】 該当なし。 【特記事項】 該当なし。 【留意事項】 該当なし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画：18～30)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、予算要求を行ってきた豊中分室のヘリウム液化装置更新について、国立大学改革基盤強化促進費での設備更新が認められ、設備マスタープランで計画されていた計画が達成されたほか、平成26年3月末日で退職の技術専門員1名について、非常勤職員（特例嘱託技術職員）として引き続き雇用するなど、継続的な業務実施に適切に取り組んでいる。また、容器の転倒防止のためのヘリウム液化室の扉の段差解消、低温センター実験棟の廊下入り口の段差及びスロープを改善など、事故防止のための環境整備にも、継続して適切に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
5. 全体の項目に関する達成状況		【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は順調に遂行されていると判断できる。引き続き、現行の取組を維持するよう期待する。 【特記事項】 平成26年度は、豊中分室のヘリウム液化装置更新が決定するなど、積極的に取り組んでいる。さらに、職員退職後の対応について適切に取り組み、継続的な業務実施に適切に対応している。 【留意事項】 特になし。

達成状況評価書(平成26年度)

部局名:超高压電子顕微鏡センター

項 目		コ メ ン ト
1. 教育 (大学の年度計画：1～7)	教育に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、適切に実施しており、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 特になし。 【留意事項】 特になし。
2. 研究 (大学の年度計画：8～10)	研究に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、300万ボルト超高压電子顕微鏡の更新のための設置建屋を完成させ、100万ボルトの物質・生命科学超高压電子顕微鏡装置の製作・設置を完了したことにより、材料内部における極微構造変化の極めて短い時間スケールでの観察、ならびに、低温において厚い生物試料を3次元立体構造観察するための研究基盤を確立している。また、学内外研究者の共同利用・共同研究ならびに文科省「ナノテクノロジープラットフォーム事業」による研究支援活動により、合計130件の課題を受け入れるなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
3. その他 (大学の年度計画：11～17)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、適切に実施しており、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 特になし。 【留意事項】 特になし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画：18～30)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、適切に実施しており、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 特になし。 【留意事項】 特になし。
5. 全体の項目に関する達成状況		【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は順調に遂行されていると判断できる。引き続き、現行の取組を維持するよう期待する。 【特記事項】 平成26年度は、物質・生命科学超高压電子顕微鏡設置建屋の建設を完了させたほか、共同利用・共同研究ならびに文科省「ナノテクノロジープラットフォーム事業」による研究支援活動により、学内外から合計130件の課題を受け入れるなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。

達成状況評価書(平成26年度)

部局名:ラジオアイソトープ総合センター

項 目		コ メ ン ト
1. 教育 (大学の年度計画：1～7)	教育に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、適切に実施しており、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 特になし。 【留意事項】 特になし。
2. 研究 (大学の年度計画：8～10)	研究に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、適切に実施しており、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 特になし。 【留意事項】 特になし。
3. その他 (大学の年度計画：11～17)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、大学等の放射性同位元素等取扱施設における放射線安全管理担当教職員に対し、実習を含めた最新の知識と情報を提供し、その資質向上を図り、もって教育・研究の進展及び施設周辺をも含めた放射線安全の確保を図ることを目的として、「放射性同位元素等取扱施設安全管理担当教職員研修」を、東京大学、京都大学、東北大学、名古屋大学との共催により、大阪大学ラジオアイソトープ総合センターを会場として開催するなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画：18～30)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、環境安全研究管理センター、安全衛生管理部と連携して、労働安全衛生法に基づく作業環境測定を実施し、その結果を関係部局にフィードバックするなど取り組んでおり、大学の実績として評価できる。また、全学の放射線業務従事者の個人管理（健康診断、被ばく管理、教育訓練等の情報管理）のための放射線総合管理システム（登録者数5,673名）を運用するなど、本学の放射線安全管理業務に適切に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
5. 全体の項目に関する達成状況		【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は順調に遂行されていると判断できる。引き続き、現行の取組を維持するよう期待する。 【特記事項】 平成26年度は、放射性同位元素等取扱施設安全管理担当教職員研修の開催、労働安全衛生法に基づく作業環境測定の実施や、放射線総合管理システム（登録者数5,673名）の運用等による放射線安全管理業務の実施に、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。

達成状況評価書(平成26年度)

部局名:環境安全研究管理センター

項 目		コメント
1. 教育 (大学の年度計画：1～7)	教育に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 該当なし。 【特記事項】 該当なし。 【留意事項】 該当なし。
2. 研究 (大学の年度計画：8～10)	研究に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、適切に実施しており、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 特になし。 【留意事項】 特になし。
3. その他 (大学の年度計画：11～17)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、適切に実施しており、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 特になし。 【留意事項】 特になし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画：18～30)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、全学すべての所有薬品の管理のため、薬品管理支援システム（OCCS）を、高圧ガスの管理のために、高圧ガス管理システムを運用しており、平成25年度に更新した新ハードウェアシステムを適切に運用している。また、ラジオアイソトープ総合センター、安全衛生管理部と連携して、労働安全衛生法に基づき作業環境測定を実施し、その結果を関係部局にフィードバックしたほか、各法令に基づく届出等について、適切に対応している。 【留意事項】 特になし。
5. 全体の項目に関する達成状況		【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は順調に遂行されていると判断できる。引き続き、現行の取組を維持するよう期待する。 【特記事項】 平成26年度は、平成25年度に更新した薬品管理支援システムや高圧ガス管理システムの新ハードウェアシステムを適切に運用するとともに、労働安全衛生法に基づく作業環境測定や、各法令に基づく届出等について、適切に対応している。 【留意事項】 特になし。

達成状況評価書(平成26年度)

部局名:国際教育交流センター

項 目		コメ ント
1. 教育 (大学の年度計画：1～7)	教育に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、留学生をメンターとして日本人の英語検定試験準備を支援する「HELP!」プログラムを開始するとともに、サポートのためのウェブ・システム、メンタートレーニングのカリキュラムの整備、及び英語学習教材の整備を行うなど、積極的に取り組んでおり、大学の実績として評価できる。 また、昨年度に導入したeポートフォリオの改修、年度計画で予定していなかった、学習・教育支援SNS/LMSシステム「Okini」の改訂・機能向上やマルチメディア教材や情報通信技術、機器を活かした授業科目の充実など、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
2. 研究 (大学の年度計画：8～10)	研究に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、適切に実施しており、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 特になし。 【留意事項】 特になし。
3. その他 (大学の年度計画：11～17)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、適切に実施しており、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 特になし。 【留意事項】 特になし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画：18～30)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 該当なし。 【特記事項】 該当なし。 【留意事項】 該当なし。
5. 全体の項目に関する達成状況		【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は順調に遂行されていると判断できる。引き続き、現行の取組を維持するよう期待する。 【特記事項】 平成26年度は、留学生をメンターとして日本人の英語検定試験準備を支援する「HELP!」プログラム開始、eポートフォリオの改修、学習・教育支援SNS/LMSシステムの改訂・機能向上など、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。

達成状況評価書(平成26年度)

部局名:生物工学国際交流センター

項 目		コメ ント
1. 教育 (大学の年度計画：1～7)	教育に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、グローバルコラボレーションセンターと応募した日本学生支援機構の海外留学支援制度（協定派遣・協定受入）でタイの4大学より大学院生（18名）を各23～83日間受入れ、タイ4大学に大学院生（16名）を各34日間派遣したほか、ダブルディグリープログラム実施のため、インドネシア・バンドン工科大学との協定を、工学研究科とともに締結するなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
2. 研究 (大学の年度計画：8～10)	研究に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、ユネスコ信託基金によりユネスコから受託する次世代バイオテクノロジー人材育成プログラム「UNESCO Biotechnology School in Asia」を、インドネシア、タイ、フィリピン、ベトナムの学術コンソーシアムとともに引き続き実施し、2期生に対し開講式を行っている。また、バンコクマヒドン大学内に設置している東南アジア共同研究拠点においても、東南アジア諸国の研究者に対し積極的に周知して利用を促し、国際的な共同研究活動を実施するなど、積極的に取り組んでおり、大学の実績として評価できる。 【留意事項】 特になし。
3. その他 (大学の年度計画：11～17)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、適切に実施しており、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 特になし。 【留意事項】 特になし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画：18～30)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、適切に実施しており、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 特になし。 【留意事項】 特になし。
5. 全体の項目に関する達成状況		【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は順調に遂行されていると判断できる。引き続き、現行の取組を維持するよう期待する。 【特記事項】 平成26年度は、日本学生支援機構の海外留学支援制度（協定派遣・協定受入）による大学院生の受入・派遣、ダブルディグリープログラム実施のための協定提携、次世代バイオテクノロジー人材育成プログラム「UNESCO Biotechnology School in Asia」の継続的な実施など、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。

達成状況評価書(平成26年度)

部局名:太陽エネルギー化学研究センター

項 目		コメ ント
1. 教育 (大学の年度計画：1～7)	教育に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、適切に実施しており、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 特になし。 【留意事項】 特になし。
2. 研究 (大学の年度計画：8～10)	研究に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、太陽光照射により水と酸素から過酸化水素を合成する新規光触媒の開発に成功し、所属教員が大型競争的資金を獲得したほか、平成25年度に確保した文理融合棟内の研究スペースについて、プロジェクト研究・共同研究を含めた活用を開始するなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
3. その他 (大学の年度計画：11～17)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、適切に実施しており、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 特になし。 【留意事項】 特になし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画：18～30)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、センター予算を4研究分野に適切に配分するとともに、一部をセンター研究環境整備費として重点分野に戦略的に配分するなど、適切に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
5. 全体の項目に関する達成状況		【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は順調に遂行されていると判断できる。引き続き、現行の取組を維持するよう期待する。 【特記事項】 平成26年度は、新規光触媒の開発と同研究により競争的資金の獲得、文理融合棟内の研究スペースの活用開始、センター研究環境整備費の重点分野への配分など、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。

達成状況評価書(平成26年度)

部局名:総合学術博物館

項 目		コメ ント
1. 教育 (大学の年度計画：1～7)	教育に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、大阪大学第14回（平成25年度）課外研究奨励費を受けレゴ部が制作したレゴ・ブロック製マチカネワニを夏季特集展で展示し、学内外に広く紹介したほか、美術部夏季部展の開催に待兼山修学館の展示室を提供し、展示・ワークショップ開催に指導・助言を行うなど、学生課外活動の支援をより充実させており、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
2. 研究 (大学の年度計画：8～10)	研究に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、適切に実施しており、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 特になし。 【留意事項】 特になし。
3. その他 (大学の年度計画：11～17)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、第7回特別展「漢方今昔物語 生薬国産化のキーテクノロジー」、第18回企画展「魅惑の美 Crystal ―最先端科学が拓く新しい結晶の魅力―」などの例年実施の特別展・企画展等に加えて、学芸員資格認定科目「博物館学（学内実習）」での模擬展示における優秀な成果を、「阪大生がつくった展覧会 2014 ベスト」として、大阪大学会館歴史展示室を利用して学生に自主的に企画・展示させ、一般に公開するなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画：18～30)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、平成25年度から運用を開始した高機能収蔵庫収蔵（修学館横）について、適塾関係等貴重資料の収蔵及び管理の収蔵計画を作成するなど、効果的な運用に努めており、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
5. 全体の項目に関する達成状況		【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は順調に遂行されていると判断できる。引き続き、現行の取組を維持するよう期待する。 【特記事項】 平成26年度は、課外研究奨励費による成果の展示や、美術部夏季部展への指導・助言等による課外活動の支援実施、学生による企画・展示の支援、高機能収蔵庫収蔵の収蔵計画の策定など、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。

達成状況評価書(平成26年度)

部局名:保健センター

項 目		コ メ ン ト
1. 教育 (大学の年度計画：1～7)	教育に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、キャンパスライフ支援センターと協力して、基礎工学研究科、言語文化研究科、薬学研究科、経済学研究科及びレーザーエネルギー学研究センターで独自に発達障害学生等に対する対応についてのFDを実施しており、計5回で約200名が参加するなど、積極的に取り組んでおり、大学の実績として評価できる。 【留意事項】 特になし。
2. 研究 (大学の年度計画：8～10)	研究に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 該当なし。 【特記事項】 該当なし。 【留意事項】 該当なし。
3. その他 (大学の年度計画：11～17)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、適切に実施しており、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 特になし。 【留意事項】 特になし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画：18～30)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、適切に実施しており、計画は概ね達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、公式ウェブサイトの全面リニューアルを行っており、イベントや講座案内、健康情報記事の掲載などを増やすなど積極的に取り組んでおり、年間のアクセス件数は平成25年度の約2万4千件から、約20万件に大幅に増加するなど、成果が上がっている。 【留意事項】 平成26年度は、年度計画において、「特殊業務健康診断受診者に対して、Web上で問診票を収集できるようシステムの機能を追加」することを計画として掲げているが、平成25年度に引き続き、同計画が未達成となっており、適切な計画の立案と取組が必要である。
5. 全体の項目に関する達成状況		【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は順調に遂行されていると判断できる。引き続き、現行の取組を維持するよう期待する。 【特記事項】 平成26年度は、学発達障害学生等に対する対応についてのFDの実施、公式ウェブサイトのリニューアルと積極的な情報発信による、ウェブサイト年間アクセス数の増加など、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 平成26年度は、平成25年度に引き続き、一部年度計画が未達成となっており、適切な計画の立案と取組が必要である。

達成状況評価書(平成26年度)

部局名:臨床医工学融合研究教育センター

項 目		コメン
1. 教育 (大学の年度計画: 1～7)	教育に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、大学院高度副プログラムとして提供してきた、高度職業人育成科の「クリニカルリサーチプロフェッショナル育成コース」について、世界に通用する人材教育を実現するために発展させ、一般社団法人日本製薬医学会と連携して、EUにおける製薬医学の標準教育プログラムPharmaTrainのカリキュラムへの準拠を図り、EU以外で初めてCenter of Excellence (CoE) として認証を受けるなど、積極的に取り組んでおり、大学の実績として評価できる。 また、米国スタンフォード大学で実施され、グローバルに展開されている、医療機器開発におけるイノベーション創出のためのバイオデザイン教育プログラムを日本人研究者向けに実施することを目指し、教員1名が渡米の上、実際の当該プログラムを受講するなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
2. 研究 (大学の年度計画: 8～10)	研究に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、未来型ハイブリッド臓器に関する国際シンポジウムを開催し、外国人教員や学外講師を招いて情報交換を行ったほか、医工情報連携シンポジウムを6回開催し、本学および国内外の他施設の研究者による講演を通じて、組織横断的な共同研究を模索するなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
3. その他 (大学の年度計画: 11～17)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、土曜日開講のスキルアップ講座を関西地域教育機関にも引き続き提供しており、26年度は5コース（うち24サブコース）を提供し、受講生は昨年度から約250名増加し、835名が受講するなど、成果が上がっている。 【留意事項】 特になし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画: 18～30)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、医・工・情報のより効率的な研究開発とグローバルな人材育成を整えた部局「国際医工情報センター」への発展的移行に向けた手続きを終え、体制、設備を整備するなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
5. 全体の項目に関する達成状況		【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は順調に遂行されていると判断できる。引き続き、現行の取組を維持するよう期待する。 【特記事項】 平成26年度は、大学院高度副プログラム「クリニカルリサーチプロフェッショナル育成コース」について、EUにおける製薬医学の標準教育プログラムへの準拠を図り、Center of Excellence (CoE) として認証を受けたほか、スキルアップ講座の実施、「国際医工情報センター」への発展的改組など、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。

達成状況評価書(平成26年度)

部局名:コミュニケーションデザイン・センター

項 目		コメント
1. 教育 (大学の年度計画：1～7)	教育に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、全学を対象とするワークショップ・対話型プログラムに関するFD研修会として「CSCDの10年とこれからの高度教養教育」を実施し、大学・大学院における共通教育・高度教養教育のあり方、取り組むべき課題について議論するなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
2. 研究 (大学の年度計画：8～10)	研究に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、適切に実施しており、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 特になし。 【留意事項】 特になし。
3. その他 (大学の年度計画：11～17)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、平成25年10月に（財）日本みち研究所からの寄附により設置した「市民協働による道路空間コミュニケーション・マネジメント」寄附研究部門での活動を進め、学生の研究成果発表を含む社会人向け公開講座の実施や、市民向けのカフェを実施するなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画：18～30)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、CSCD創設10周年にあたり、CSCDEXPOと銘打ち、11月の1ヶ月間に30の対話プログラムを展開している。それと連動して、外部評価委員を対象としたインタビューを実施し、CSCDEXPOに関連する広報媒体として発行するなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
5. 全体の項目に関する達成状況		【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は順調に遂行されていると判断できる。引き続き、現行の取組を維持するよう期待する。 【特記事項】 平成26年度は、全学を対象とするワークショップ・対話型プログラムに関するFD研修会の開催、寄附研究部門での活動、創設10周年事業の実施など、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。

達成状況評価書(平成26年度)

部局名:金融・保険教育研究センター

項 目		コメン
1. 教育 (大学の年度計画：1～7)	教育に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、昨年度に引き続き、学術上先端的なものから実践的なものまで多様な内容の科目、計32科目で構成される「副専攻プログラム」、「高度副プログラム」、「科目等履修生高度プログラム」を提供するなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
2. 研究 (大学の年度計画：8～10)	研究に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、適切に実施しており、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 特になし。 【留意事項】 特になし。
3. その他 (大学の年度計画：11～17)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、大阪証券取引所と共同で、金融市場の代表的リスク指標であるボラティリティ・インデックスの日本版（VXJ）の開発、継続的な公開を行うなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画：18～30)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 数理・データ科学を駆使して、産業界・学界などの多種多様な分野の中核で活躍できる人材育成を行う事業である「複雑システム解析のための次世代数理・データ科学人材育成」が、平成27年度から予算措置されることとなるなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
5. 全体の項目に関する達成状況		【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は順調に遂行されていると判断できる。引き続き、現行の取組を維持するよう期待する。 【特記事項】 平成26年度は、「副専攻プログラム」、「高度副プログラム」、「科目等履修生高度プログラム」の継続実施、金融市場のリスク指標の継続的な公開、「複雑システム解析のための次世代数理・データ科学人材育成」事業の採択など、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。

達成状況評価書(平成26年度)

部局名:科学機器リノベーション・工作支援センター

項 目		コメン
1. 教育 (大学の年度計画：1～7)	教育に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、適切に実施しており、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 特になし。 【留意事項】 特になし。
2. 研究 (大学の年度計画：8～10)	研究に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、利用者のニーズに合う情報を効果的に提供するしくみの構築のため、ウェブサイトのリニューアルし、利用者の必要な情報を見やすく、探しやすいしたほか、システムに「お問い合わせ機能」を追加し、機器利用に関する技術的な問い合わせに対して、ウェブで質問を受け付けるなどの機器利用に関する技術支援を行っており、リユース機器の利用件数も増加するなど、成果が上がっている。 【留意事項】 特になし。
3. その他 (大学の年度計画：11～17)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、適切に実施しており、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 特になし。 【留意事項】 特になし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画：18～30)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、適切に実施しており、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 特になし。 【留意事項】 特になし。
5. 全体の項目に関する達成状況		【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は順調に遂行されていると判断できる。引き続き、現行の取組を維持するよう期待する。 【特記事項】 平成26年度は、利用者の機器利用の支援のため、ホームページのリニューアルや、ウェブ上での問い合わせ機能の追加など、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。

達成状況評価書(平成26年度)

部局名:グローバルコラボレーションセンター

項 目		コメ ント
1. 教育 (大学の年度計画：1～7)	教育に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、海外フィールドスタディについて、実習関連科目の改編を行い、計8プログラムを実施したほか、海外インターンシップとして、「海外インターンシップI」、「海外インターンシップII (A)」「海外インターンシップII (B)」を実施している。また、授業科目「国連政策エキスパート・キャリア形成論」を実施し、国際的な舞台でのキャリア形成に関するセミナーやシンポジウムを3件実施し、情報提供を行っている。さらに、グローバル人材の育成を見据えた全学的なキャリア形成教育の一環として、センターが提供する教育プログラムを位置付け、適切な改善を行うなど、積極的に取り組んでおり、大学の実績として評価できる。 【留意事項】 特になし。
2. 研究 (大学の年度計画：8～10)	研究に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、地域研究コンソーシアムと連携し、「グローバル化時代の法と社会」に関する共同研究を実施したほか、地域社会と対話的で持続可能な関係を構築するための実践的研究（コミュニティ・エクステンション・リサーチ、Community Extension Research）を新たに実施するなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
3. その他 (大学の年度計画：11～17)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、NPOなどと連携し、多文化共生をテーマとした「ミックスルーツ研究会」の実施や外国人児童・生徒の学習支援事業（「ハロハロ・スクウェア」）、レイテ島台風被災地における校舎再建事業など、複数の実践的研究を実施するなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画：18～30)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、適切に実施しており、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 特になし。 【留意事項】 特になし。
5. 全体の項目に関する達成状況		【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は順調に遂行されていると判断できる。引き続き、現行の取組を維持するよう期待する。 【特記事項】 平成26年度は、海外フィールドスタディの改編、グローバル人材の育成を見据えたキャリア形成教育の実施と改善、NPOなどと連携した実践的研究の実施など、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。

達成状況評価書(平成26年度)

部局名:日本語日本文化教育センター

項 目		コメント
1. 教育 (大学の年度計画：1～7)	教育に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、国費学部留学生予備教育プログラムにおいて、専攻種別等による留学生の受け入れを実現することを目標に、その是非や方法について、東京外国語大学留学生日本語教育センターと協議し、検討を開始したほか、ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）等を参考にした新たな日本語能力評価基準及びその測定法（プレースメントテスト）の開発に向けた海外調査、4点の留学生教材の新規発行、母国での学習環境の問題からプレースメントテスト及び到達度測定試験結果が不良であった国費学部予備教育留学生に対しての個別学習指導の実施など、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
2. 研究 (大学の年度計画：8～10)	研究に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、科学研究費補助金の採択率向上を目指して、センター独自の説明会を初めて実施するなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
3. その他 (大学の年度計画：11～17)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、適切に実施しており、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 特になし。 【留意事項】 特になし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画：18～30)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、図書室の利用の促進を図るとともに、日本に対する留学生の知見を広げることを目的に、センター図書室に古典籍や浮世絵を実際に手に取ることができる常設コーナーを新設している。教育環境に関するアンケートでは、95%の留学生が図書室に対して肯定的な評価をするなど、成果が上がっている。 【留意事項】 特になし。
5. 全体の項目に関する達成状況		【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は順調に遂行されていると判断できる。引き続き、現行の取組を維持するよう期待する。 【特記事項】 平成26年度は、専攻種別等による留学生の受け入れの検討開始、新たな日本語能力評価基準及びその測定法の開発に向けた調査実施、古典籍や浮世絵の常設コーナーの図書室への開設など、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。

達成状況評価書(平成26年度)

部局名:環境イノベーションデザインセンター

項 目		コメント
1. 教育 (大学の年度計画：1～7)	教育に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、3科目の英語中心の授業科目を実施するとともに、平成27年度からの新規1件の開講準備を進めたほか、自治体や地元団体と連携して環境や地域の持続性に係る実践型の授業を継続して実施するなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
2. 研究 (大学の年度計画：8～10)	研究に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、24年度以降設置してきた研究プロジェクトを見直し、改廃により平成26年度は12の研究プロジェクトを実施（平成25年度は14件実施）するなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
3. その他 (大学の年度計画：11～17)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、適切に実施しており、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 特になし。 【留意事項】 特になし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画：18～30)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、低炭素キャンパスの実現を推進するため、大学施設のエネルギー消費実態に関する研究やアウトリーチ活動を行うとともに、環境・エネルギー管理部と連携し、大学全体の省エネルギー活動やESCO事業の推進等に取り組んでおり、大学の年度計画の達成に貢献している。 【留意事項】 特になし。
5. 全体の項目に関する達成状況		【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は順調に遂行されていると判断できる。引き続き、現行の取組を維持するよう期待する。 【特記事項】 平成26年度は、英語中心による授業の実施と新規開講の準備、実施の研究プロジェクトの見直し、大学施設のエネルギー消費実態に関する研究・アウトリーチの実施など、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。

達成状況評価書(平成26年度)

部局名: ナノサイエンスデザイン教育研究センター

項 目		コメント
1. 教育 (大学の年度計画: 1~7)	教育に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、社会人教育科目等履修生高度プログラムに関してカリキュラムの拡充を行ったほか、企業、学外教員も講師となる大学院生・社会人共通科目の土曜集中講義である、新規技術の社会への適応方法を探る「ナノテクノロジー社会受容特論」を演習・発表を加えて3回から4回に拡大するとともに、同「ナノテクノロジー社会受容特論」及び、ロードマップとデバイス・システムのコンセプト作りに資する「ナノテクノロジーデザイン特論」を合計8日間に拡大して開講し、大学院生・社会人共通の97名が受講するなど、積極的に取り組んでおり、大学の実績として評価できる。 【留意事項】 特になし。
2. 研究 (大学の年度計画: 8~10)	研究に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、学外機関との連携を図るために、関西6機関のナノテクノロジー教育研究部門が連携して、1月に関西ナノテクネットワークを立ち上げ、学際的・融合的学問分野の創出のための活動を開始したほか、大阪大学ナノ理工学人材育成産学コンソーシアムとの活動強化により、共同研究が増加（前年度から2件増の5件）となるなど、成果が上がっている。 【留意事項】 特になし。
3. その他 (大学の年度計画: 11~17)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、大阪大学ナノ理工学産学連携コンソーシアムと連携した情報交流会、セミナーを合計5回開催しており、毎回の課題をコンソーシアムの企業委員の要望により決定し、遠隔配信地域を10箇所を増やすことにより、前年度に比べて参加者が約100名増加するなど、成果が上がっている。 【留意事項】 特になし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画: 18~30)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、大阪大学ナノ理工学人材育成産学コンソーシアムからの奨学寄付金を得たほか、HPCI（ハイパーフォーマンス・コンピューティング・インフラ）プロジェクト計算物理科学イニシアティブ経費を継続して獲得し、さらに共同研究費など外部資金等を多く獲得している。また文部科学省特別経費「社会に開かれた大学院の科学技術人材育成モデル事業-社会連携とグローバル化に適うナノデザイン教育研究によるものづくり理工学人材の育成-」を獲得し、ものづくりナノ基盤科学技術人材育成における社会性、国際性のより一層の発展に積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
5. 全体の項目に関する達成状況		【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は順調に遂行されていると判断できる。引き続き、現行の取組を維持するよう期待する。 【特記事項】 平成26年度は、「ナノテクノロジー社会受容特論」等の土曜集中講義の拡大開講、大阪大学ナノ理工学産学連携コンソーシアムと連携した情報交流会、セミナーの開催、外部資金等の獲得など、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。

達成状況評価書(平成26年度)

部局名:知的財産センター

項 目		コメント
1. 教育 (大学の年度計画: 1～7)	教育に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、法学研究科知的財産プログラム生及び法学部生向け教材として、「著作権法」、「商標法」を出版し、学習効果の質的な向上を図ったほか、多数の実務経験者による授業を引き続き提供するとともに、実務家教員による総合演習科目として「特許関係訴訟」を新規開講するなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
2. 研究 (大学の年度計画: 8～10)	研究に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、センター開設後初めて企業から受託研究費を受け入れ、研究を開始したほか、海外との共同研究を実施するなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
3. その他 (大学の年度計画: 11～17)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、国立台北科技大学智慧財産権研究所との学術交流締結をはじめ、ブリュッセル大学、ブカレスト大学、中国・四川大学など諸外国との学術交流を積極的に推進し、面談、情報交換、共同研究などを実施したほか、教員のドイツ派遣、中国派遣を併せて実施するなど、国際交流に積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画: 18～30)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、「改正商標法シンポジウム」、「パブリシティ権の現状と課題」、「ハーグ協定を活用した意匠法の保護」と題した、多数の実務家が参加するシンポジウムを開催しており、シンポジウムの有料化に成功するなど、成果が上がっている。 【留意事項】 特になし。
5. 全体の項目に関する達成状況		【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は順調に遂行されていると判断できる。引き続き、現行の取組を維持するよう期待する。 【特記事項】 平成26年度は、法学研究科知的財産プログラム生及び法学部生向け教材としての「著作権法」、「商標法」の出版、シンポジウムの有料化による実施など、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。

達成状況評価書(平成26年度)

部局名:核物理研究センター

項 目		コメ ント
1. 教育 (大学の年度計画：1～7)	教育に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、新規プログラムとして、医学系研究科、理学研究科と連携協力して、医学物理士養成のための授業「放射線基礎物理学」を開講し、臨床現場での応用力・実践力などを養うための講義（10名）・施設実習（7名）・計算演習（10名）を実施するなど、積極的に取り組んでおり、大学の実績として評価できる。 【留意事項】 特になし。
2. 研究 (大学の年度計画：8～10)	研究に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、特筆すべき取り組みが行われており、計画は上回って達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、レーザー電子光施設での測定器開発及び研究推進機能を強化するため、大阪大学初のクロス・アポイントメント契約により、理化学研究所の職員を受け入れたほか、外国人の優れた研究者をクロス・アポイントメント制度により特任教員として4名迎えるなど、積極的に取り組んでおり、大学の実績として評価できる。 【留意事項】 特になし。
3. その他 (大学の年度計画：11～17)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、適切に実施しており、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 特になし。 【留意事項】 特になし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画：18～30)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、適切に実施しており、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 特になし。 【留意事項】 特になし。
5. 全体の項目に関する達成状況		【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は順調に遂行されていると判断できる。引き続き、現行の取組を維持するよう期待する。 【特記事項】 平成26年度は、医学物理士養成のための授業「放射線基礎物理学」の開講、クロス・アポイントメント制度の活用など、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。

達成状況評価書(平成26年度)

部局名:サイバーメディアセンター

項 目		コメン
1. 教育 (大学の年度計画: 1~7)	教育に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、ICTを利用した教育環境の整備を、全学教育推進機構や教育学習支援センターと連携して実施し、授業支援システムCLEをはじめとする各種教育情報化のツールの利用普及を図っており、15の部局で様々な形態での遠隔講義システムの利用が進み、サテライトキャンパスを対象としたもの、複数大学を接続するもの、海外の大学との連携など、正規授業科目やセミナーなど多くの利用実績が上がったほか、CLEの利用も前年度と比較して20%以上の利用増加があり、1,000科目以上の授業科目において、CLEが利用されるなど、成果が上がっており、大学の実績として評価できる。 【留意事項】 特になし。
2. 研究 (大学の年度計画: 8~10)	研究に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、特筆すべき取り組みが行われており、計画は上回って達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、「ネットワーク型」学際大規模情報基盤共同利用・共同研究拠点として、共同研究課題を公募し、採択された5課題について、センターの大規模計算機システムや可視化装置を活用して共同研究を実施したほか、さらに、革新的ハイパフォーマン・コンピューティング・インフラ (HPCI) の一員として、HPCIシステムの認証基盤システムの構築にあたって大きく貢献し、HPCIの共用計算資源の利用について、センターの供出した計算機資源の利用課題が10件採択されるなど、積極的に取り組んでおり、大学の実績として評価できる。 【留意事項】 特になし。
3. その他 (大学の年度計画: 11~17)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、ウェブ上での学習システムであるWebOCMnextの教材作成システムを構築し利用を開始しており、英語2種、ドイツ語1種、日本語1種の教材を作成し、市民講座「大阪大学の次世代型市民講座～インターネットによる外国語学習へのお誘い」において利用され、取組が新聞紙に取り上げられるなど、成果が上がっている。 【留意事項】 特になし。
4. 業務運営 以降 (大学の年度計画: 18~30)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、全学IT認証基盤システム更改作業の開始や、高効率の冷却設備等を備えたデータセンターとしてITコア棟を建設し、利用を開始するなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
5. 全体の項目に関する達成状況		【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は順調に遂行されていると判断できる。引き続き、現行の取組を維持するよう期待する。 【特記事項】 平成26年度は、遠隔講義システムや授業支援システムCLEの利用促進、ウェブ上での学習システムであるWebOCMnextの構築、データセンターであるITコア棟の建設など、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。

達成状況評価書(平成26年度)

部局名:レーザーエネルギー学研究センター

項 目		コメ ント
1. 教育 (大学の年度計画：1～7)	教育に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、センターの装置を用いた11件の国際共同実験すべてに学生を参加させ（88名参加）、世界トップクラスの研究者との研究交流を通じて、国際性とコミュニケーション力をつけ、世界的な研究成果を上げる教育環境を提供するなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
2. 研究 (大学の年度計画：8～10)	研究に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、特筆すべき取り組みが行われており、計画は上回って達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、計画課題型共同研究5課題並びに自由課題型共同研究として160件の共同研究を実施しており、レーザー宇宙プラズマ物理研究においては、センターの研究者が研究代表者となって米国立点火施設での実験を進めており、その成果がネイチャー・フィジックス誌に掲載されるとともに、新聞で多数報道されるなど成果が上がっている。また、テラヘルツ分野の開拓に世界的に貢献し、高い評価を得ており、同分野における世界トップレベル研究者の相互引用において、センターの研究者が第1位、第3位を占めるなど、成果が上がっている。 【留意事項】 特になし。
3. その他 (大学の年度計画：11～17)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、経済産業省の助成を受け、民間企業との間で共同研究を実施し、センターで開発されたレーザーテラヘルツエミッション顕微鏡を用いた太陽電池評価装置の実証機開発を行っており、成果が新聞等で多数報道されるなど、成果が上がっている。 【留意事項】 特になし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画：18～30)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、前年度行ったESCO事業による空調熱源の更新を受けて、さらなる節電のための運転モードの最適化を図ったほか、大型計算機の更新を機に、サイバーメディアセンターと協力して、空調効率を高めるために設置場所をサイバーメディアセンターITコア棟に集約させるなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
5. 全体の項目に関する達成状況		【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は順調に遂行されていると判断できる。引き続き、現行の取組を維持するよう期待する。 【特記事項】 平成26年度は、国際共同実験への学生の参加、160件の共同研究実施と新聞等による研究成果の報道、経済産業省の助成による共同研究の実施、更なる節電に向けた取組など、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。

達成状況評価書(平成26年度)

部局名:免疫学フロンティア研究センター

項 目		コメ ント
1. 教育 (大学の年度計画：1～7)	教育に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、センター主催の英語によるセミナーを計12回にわたり開催し、延べ450名以上の参加者があったほか、平成23年度から実施している若手研究者海外派遣支援プログラムを活用し、計8名の大学院生を含む若手研究者を海外の学会に出席させるなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
2. 研究 (大学の年度計画：8～10)	研究に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、特筆すべき取り組みが行われており、計画は上回って達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、ワクチンアジュバントのメカニズム解明とその臨床応用に関する研究が大阪科学賞を受賞したほか、国際研究拠点形成のため、積極的に外国人研究者の採用に努め、25名採用された特任教員・研究員のうち17名が外国人となるなど、積極的に取り組んでおり、大学の実績として評価できる。 【留意事項】 特になし。
3. その他 (大学の年度計画：11～17)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、岸本基金フェローシップにより、新たに6名の外国人を特任研究員として採用したほか、梅田北ヤードのナレッジキャピタルにおける、免疫学者・イメージング研究者を招いた国際シンポジウムの開催など、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画：18～30)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、WPIプログラム委員会における評価を踏まえて、免疫ダイナミズムの包括的理解を目指すセンターの融合領域研究を更に推進するため、イメージンググループに外国人主任研究者による「脳－免疫系相互作用」研究室を設置したほか、公的研究費使用ハンドブックの一部を英訳し、外国人研究者への周知を図るなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
5. 全体の項目に関する達成状況		【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は順調に遂行されていると判断できる。引き続き、現行の取組を維持するよう期待する。 【特記事項】 平成26年度は、センター主催の英語によるセミナーの開催、所属教員の大阪科学賞の受賞、融合領域研究の更なる推進のため、外国人主任研究者による「脳－免疫系相互作用」研究室の設置など、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。

達成状況評価書(平成26年度)

部局名: 全学教育推進機構

項 目		コメン
1. 教育 (大学の年度計画: 1~7)	教育に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、特筆すべき取り組みが行われており、計画は上回って達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、コラボレーティブ・イノベーション人材の育成を目指して教養教育カリキュラム検討WGを設置し、学事暦変更及び高度教養教育の充実を含むカリキュラム改革の検討を開始したほか、大学院横断教育部門を中心とする検討ワーキングにおいて、文系の部局横断型教育プログラムである「マルチリンガル・エキスパート養成プログラム」を平成27年度に開始するための準備を整えるなど、積極的に取り組んでおり、大学の実績として評価できる。 また、ネイティブスピーカーによる対話型少人数クラス「実践英語（上級）」を、第Ⅲセメスターに計8コマ新設したほか、「英語（Speaking）」「英語（Writing）」の担当教員について、すべてネイティブ教員が担当することとするなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
2. 研究 (大学の年度計画: 8~10)	研究に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、適切に実施しており、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 特になし。 【留意事項】 特になし。
3. その他 (大学の年度計画: 11~17)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、海外フィールドスタディ3プログラムや、海外インターンシップ参加への助成により、学生の海外渡航の支援を実施しているほか、グローバルコラボレーションセンター、国際教育交流センターおよび学生交流推進課との連携の下、計13名の「トビタテ！留学Japan；日本代表プログラム」採用者を得るなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画: 18~30)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、本学における学際融合教育の情報を集約した学生向けのウェブサイト「大阪大学 学際融合教育」を作成し、修了者インタビュー等を掲載し、情報提供を開始したほか、昨年度に引き続き、大学院副専攻/高度副プログラム案内冊子、知のジムナスティックス案内冊子、学際融合教育ガイドを発行し周知を図るなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
5. 全体の項目に関する達成状況		【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は順調に遂行されていると判断できる。引き続き、現行の取組を維持するよう期待する。 【特記事項】 平成26年度は、教養教育カリキュラム検討WGの設置、マルチリンガル・エキスパート養成プログラム実施に向けた整備、英語教育の充実、学生の海外渡航の支援、本学の学際融合教育に関するウェブサイト開設による学際融合教育の周知と教育の推進など、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。

達成状況評価書(平成26年度)

部局名:教育学習支援センター

項 目		コメント
1. 教育 (大学の年度計画：1～7)	教育に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成26年度は、MOOC教材開発ユニットを設置し、MOOC教材の制作を開始したほか、サイバーメディアセンターと協力して、授業支援システムCLEの利用者講習会を開催するとともに、同講習会について、CLEの機能の説明だけでなく、実際の授業のデザインに従った利用の方法に対応した講習とすべく、新規教材の整備を行っている。また、教育改革推進会議に協力して、全学部・学科の代表者に対して「カリキュラム・マップ作成研修会」を、全学FD委員会に協力して、アクティブラーニングやGPA導入などに関するFD研修を、教育学習支援センター主催として、計63回のFDプログラムや2～4日間に渡って開催される授業デザインワークショップを実施するなど、積極的に取り組んでおり、大学の実績として評価できる。 【留意事項】 特になし。
2. 研究 (大学の年度計画：8～10)	研究に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 該当なし。 【特記事項】 該当なし。 【留意事項】 該当なし。
3. その他 (大学の年度計画：11～17)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流	【年度計画の達成状況】 該当なし。 【特記事項】 該当なし。 【留意事項】 該当なし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画：18～30)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成26年度は、適切に実施しており、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 特になし。 【留意事項】 特になし。
5. 全体の項目に関する達成状況		【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は順調に遂行されていると判断できる。引き続き、現行の取組を維持するよう期待する。 【特記事項】 平成26年度は、MOOC教材の制作開始、CLEの利用者講習会実施と講習会充実に向けた取組、センター主催のFDプログラム等の開催や、カリキュラム・マップ作成研修会、FD研修会への協力など、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。